

令和6年度配偶者暴力被害の実態と
関係機関の支援の現状に関する調査
概要版

目次

1. 調査概要・受付件数

2. 第1章 配偶者暴力相談支援センターにおける 相談内容調査結果

- 電話相談(被害者)
- 面接相談

3. 第2章 配偶者暴力被害体験者個別調査結果

- 暴力を受けたときの心理状況
- 子供への暴力の有無と内容
- 東京都発行のパンフレット又はカードの使用状況
- 公的機関等における自立に向けた支援・対応の現状

4. 第3章 配偶者暴力被害支援関係機関及び 民間支援団体結果

- 配偶者からの暴力に係る相談等について
- 配偶者暴力被害者の支援について
- 配偶者暴力被害者の子供への支援について
- 関係機関等との連携について
- 加害者への対応について
- 配偶者暴力被害者に支援に係る課題等について

○調査概要・受付件数

【目的】

都内の配偶者暴力の実態を把握し、「東京都配偶者暴力対策基本計画」の改定に当たっての検討基礎資料として使用

【各調査項目・調査対象・受付件数(前回調査(令和元年度実施)との比較)】

1 都内配偶者暴力相談支援センター等における電話・面接・男性相談【第1章】

〈調査項目①～③共通〉 配偶者暴力被害者・加害者の状況、暴力の内容、子供の状況、相談内容、求める援助

① 電話相談(加害者・被害者): 令和6年7月1日～9月13日

〈調査対象〉 都内配偶者暴力相談支援センターにおける電話相談のうち配偶者暴力被害者及び加害者からの相談

〈受付件数〉 930件 ※前回調査時1,041件

② 面接相談: 令和6年7月1日～9月30日

〈調査対象〉 都内配偶者暴力相談支援センターで受付けた配偶者暴力被害者の面接相談

〈受付件数〉 129件 ※前回調査時83件

③ 男性相談(加害者・被害者): 令和6年7月1日～9月30日

〈調査対象〉 東京ウィメンズプラザにおける男性相談のうち配偶者暴力に関するもの

〈受付件数〉 62件 ※前回調査時58件

○調査概要・受付件数

【各調査項目・調査対象・受付件数(前回調査(令和元年度実施)との比較)】 続き

2 配偶者暴力被害体験者個別調査:令和6年8月1日～11月15日【第2章】

〈調査項目〉 被害者属性、被害内容、子供の状況、これまで受けた支援・今後望む支援 等

〈調査対象〉 配偶者暴力被害経験者(都内配暴センターや被害者支援団体の被支援者等)

〈受付件数〉 98件 ※前回調査時72件

3 配偶者暴力被害者支援に係る関係機関調査:令和6年8月1日～10月31日【第3章】

〈調査項目〉 配偶者暴力被害に関する相談や被害者の支援、被害者の子供の支援、機関間の連携、加害者への対応、啓発の実態と課題 等

〈調査対象〉 配偶者暴力被害者等の相談・自立支援機関等(警視庁、医療機関、子ども家庭支援センター等)

〈受付件数〉 306件 ※前回調査時361件

4 配偶者暴力被害者支援に係る民間支援団体調査:令和6年8月1日～10月31日【第3章】

〈調査項目〉 3の項目に加えて、民間支援団体の運営体制 等

〈調査対象〉 民間シェルター等支援機関

〈受付件数〉 15件 ※前回調査時13件

○調査機関・内容別調査結果一覧表

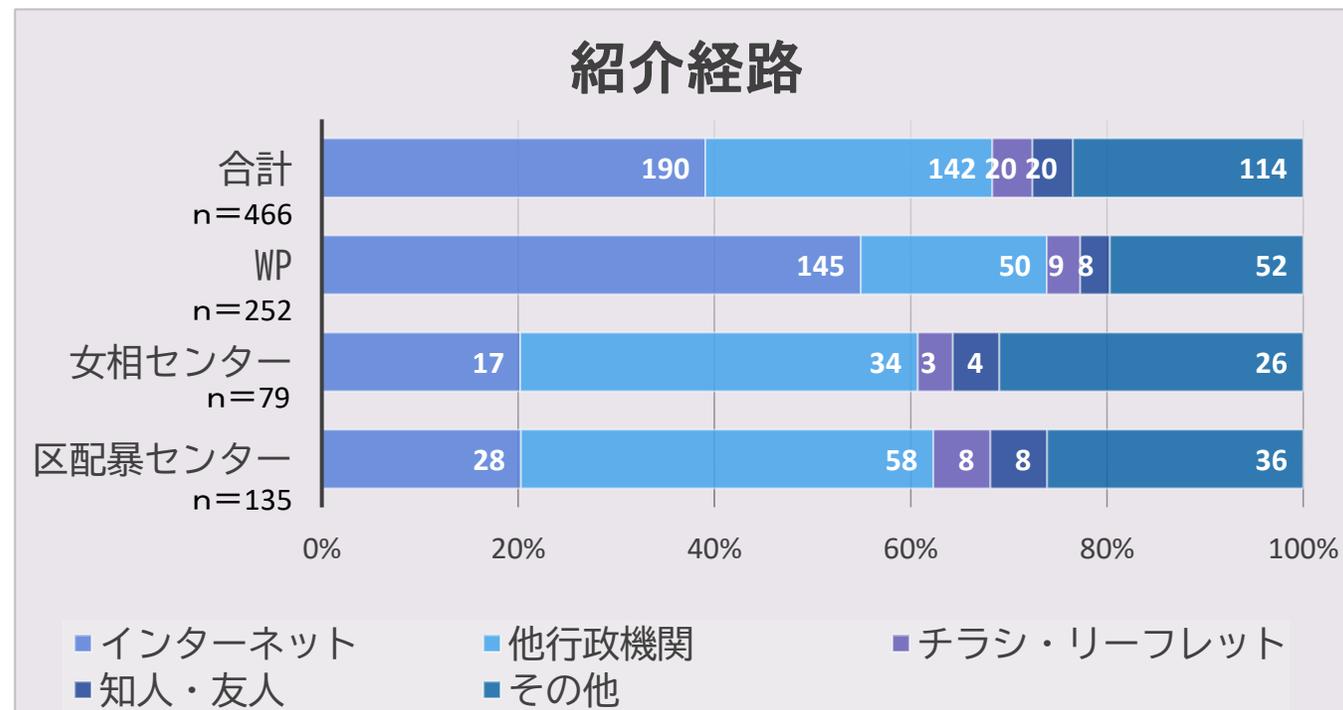
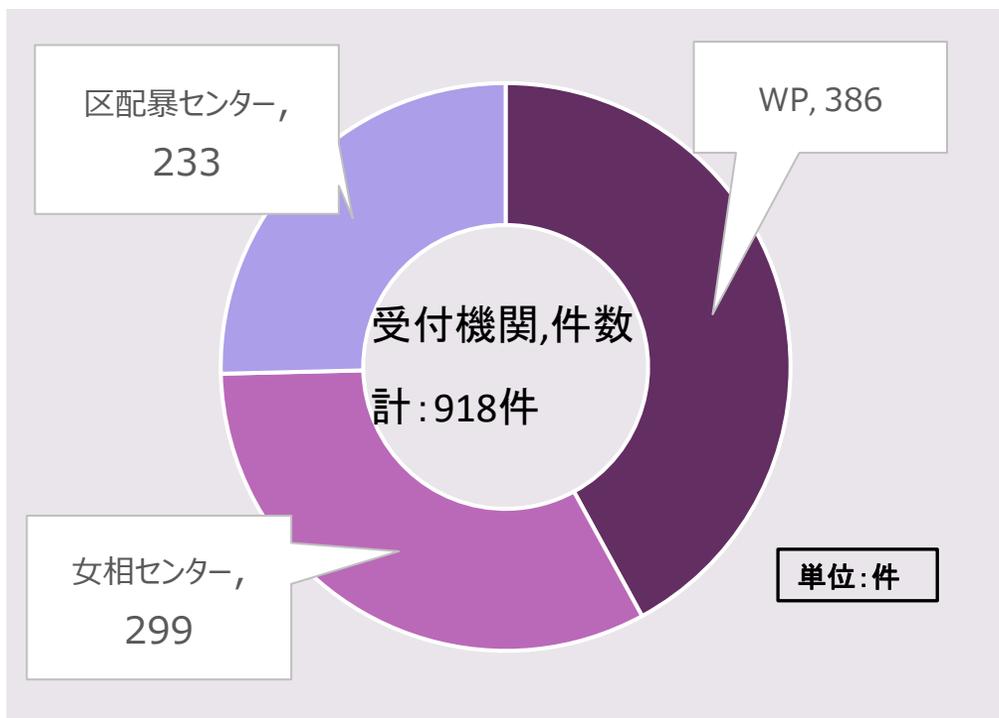
単位：件

調査機関	調査内容							
	ア_電話相談		イ 面接 相談	ウ_男性相談		エ 被害 体験 者	オ 関係 機関	カ 民間 団体
	被害者	加害者		被害者	加害者			
東京ウィメンズプラザ	386	12	1	45	17	推薦依頼		
東京都女性相談支援センター	299		30			推薦依頼		
特別区配偶者暴力相談支援センター	233		98			推薦依頼		
都立病院							13	
医療機関							18	
警察署							102	
児童相談所							12	
子ども家庭支援センター							37	
弁護士会・法テラス							4	
幼稚園・保育園・こども園							120	
民間団体						推薦依頼		15
合計	918	12	129	45	17	98	306	15

1. 電話相談(被害者)

○受付機関及び受付件数、紹介経路

- 前回調査では、受付機関が東京ウィメンズプラザ(以下:WP)、東京都女性相談支援センター(以下:女相センター)のみであったが、今回調査では、特別区配偶者暴力相談支援センター(以下:区配暴センター)20箇所にも調査協力を依頼。
- 紹介経路としては、無回答であったものを除くと、インターネットが最も多く、次いで他行政機関となっている。特に、区配暴センターにおいては、他行政機関からの紹介が多い。

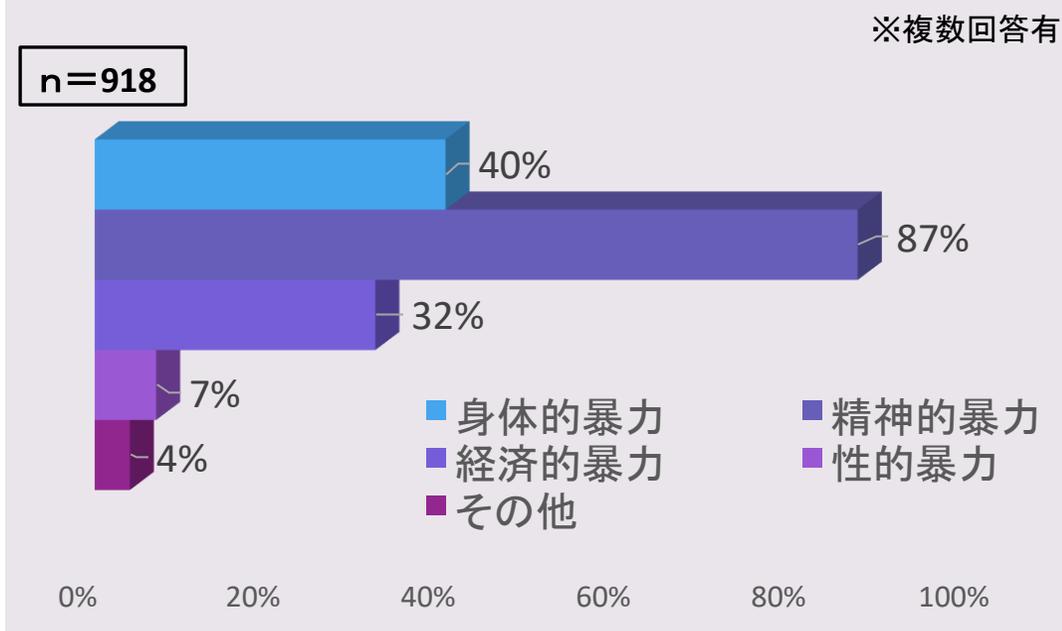


1. 電話相談(被害者)

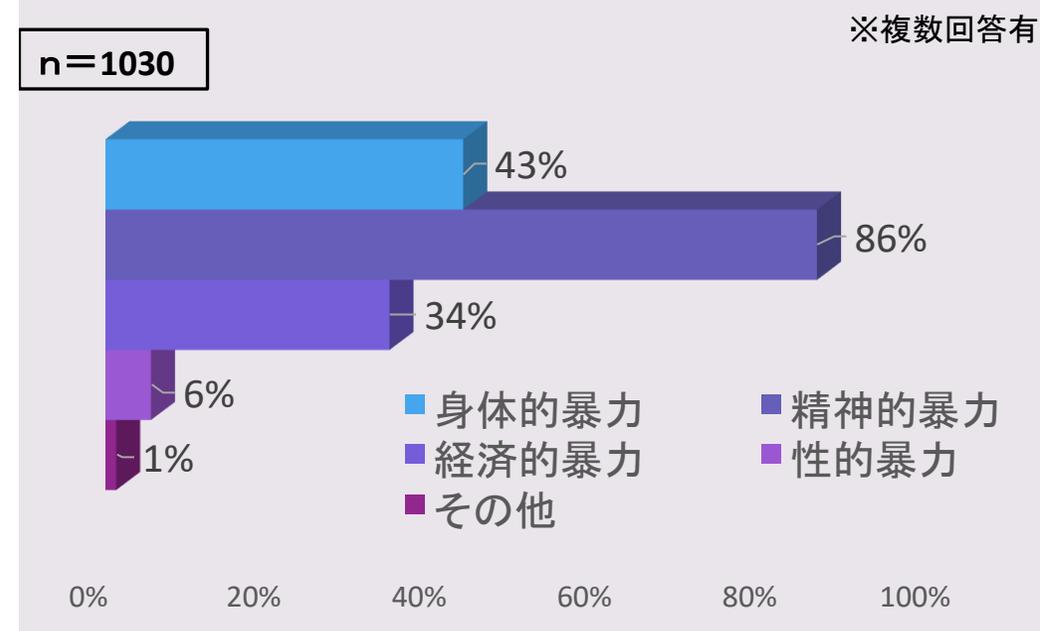
○ 受けた暴力の種類

- 受けた暴力は、「精神的暴力」が87%で最も多くなっている。次いで、「身体的暴力」が40%、「経済的暴力」が32%となっており、前回調査とも同様の傾向となっている。

<令和6年度調査>



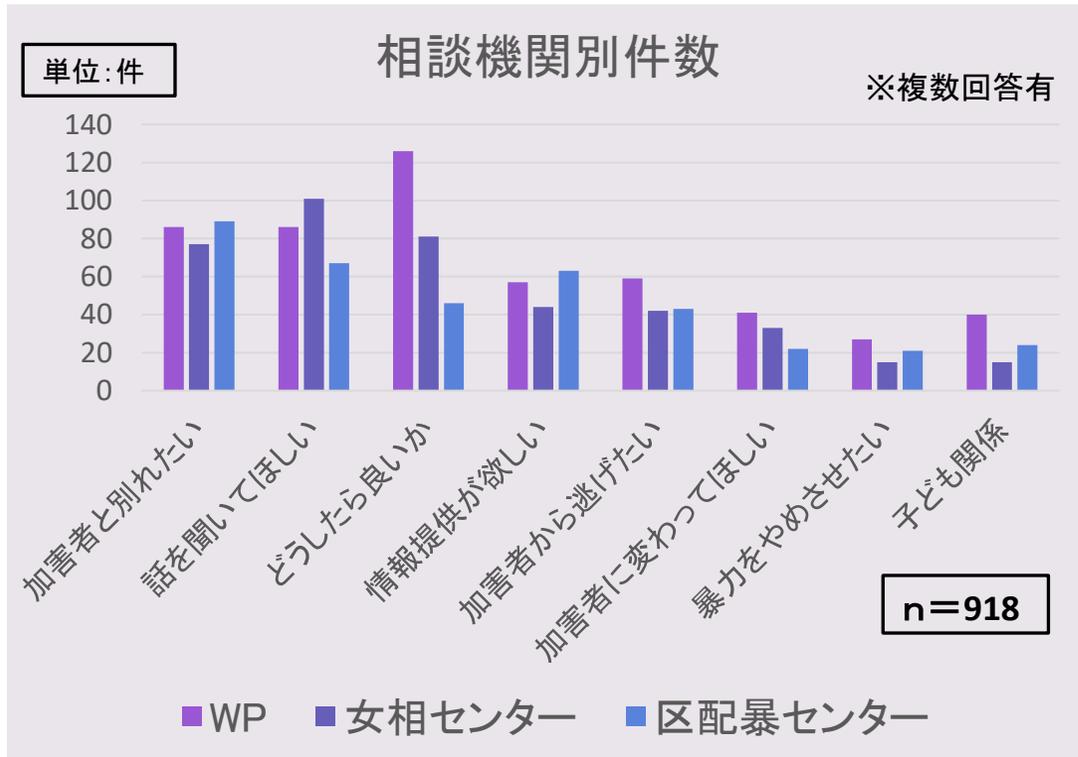
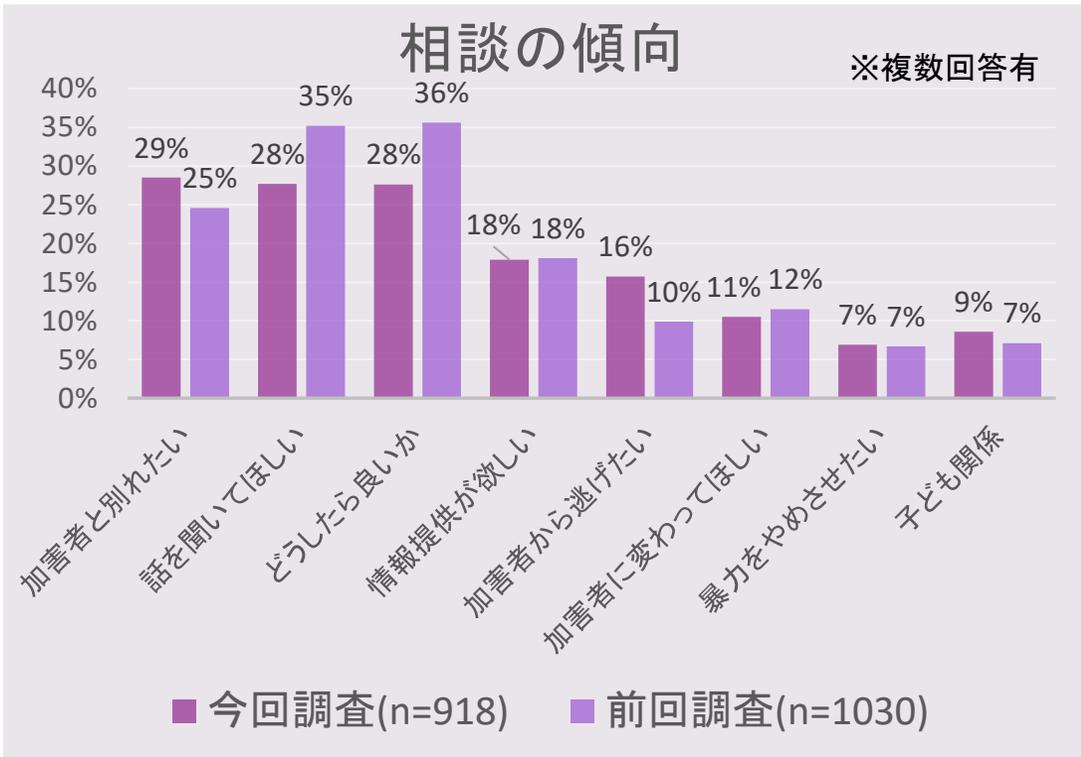
<参考: 前回(令和元年度)調査>



1. 電話相談(被害者)

○相談内容の傾向

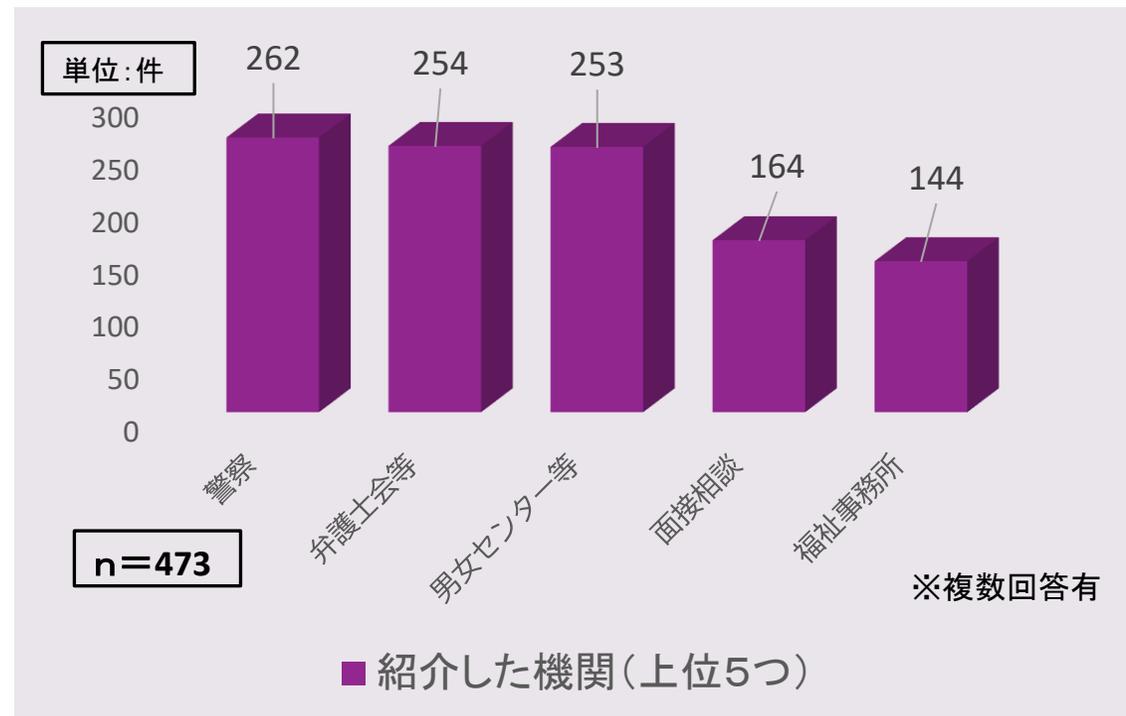
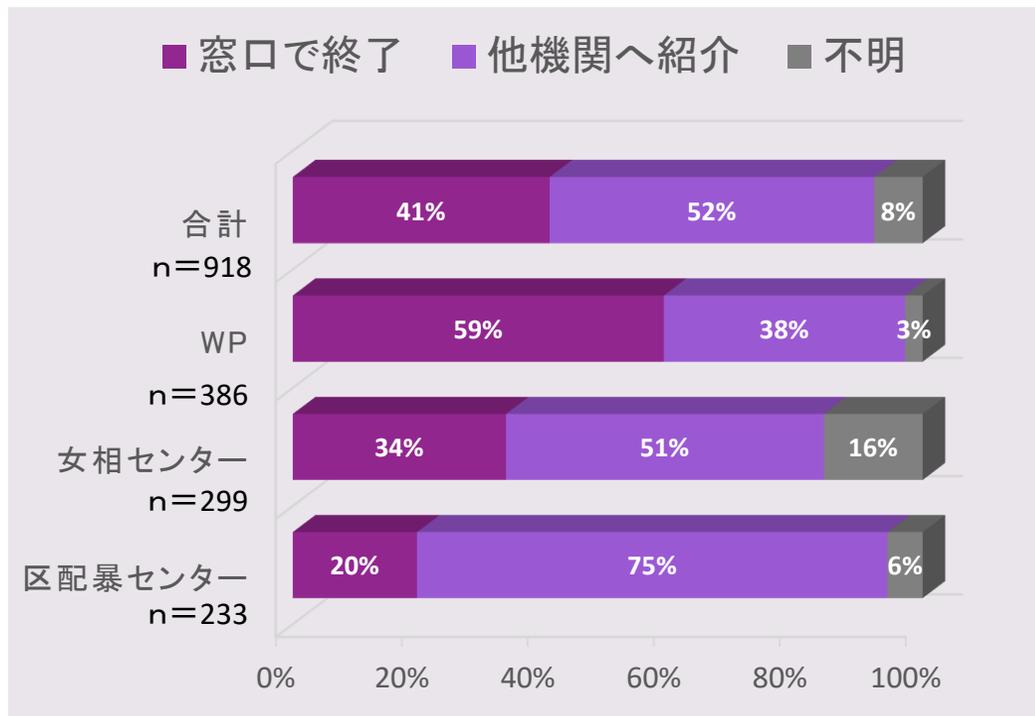
- 被害者の相談内容としては、「加害者と別れたい」、「話を聞いてもらいたい」、「どうしたら良いのかわからない」が多くなっている。次いで、「情報を提供してほしい」、「加害者から逃げたい」等が続く。
- 特に区配暴センターにおいては、「別れたい」や「逃げたい」など具体的な相談が多い傾向となっている。



1. 電話相談(被害者)

○相談後の紹介先

- 相談が窓口で終了した人は4割ほどで、半数以上の52%は他機関への紹介を行っている。特に、区配暴センターでは、約75%のケースで他機関への紹介を行っている。
- 他の機関への紹介先としては、「警察」、「弁護士会、法テラス等」、「男女センター等」が多い。



1. 電話相談(被害者)

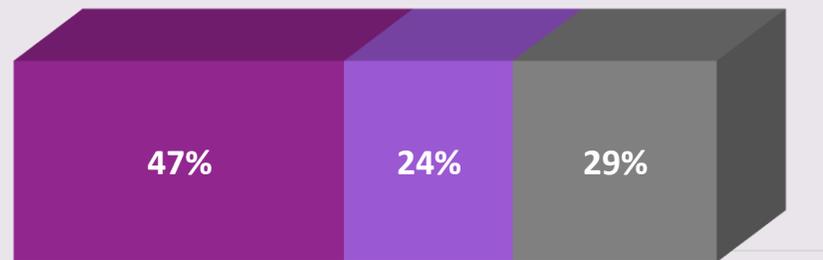
○加害者から子供への暴力の有無・内容

- 加害者から子供への暴力がある人が 47%となっており、約半数近くで、子供への虐待が併発していることがわかる。
- 暴力の内容として、前回調査では、精神的暴力が約7割となっていたが、今回調査では、面前DVの項目を新設され、面前DVが71%で一番多く、次いで、精神的暴力(面前DV以外)、身体的暴力と続く。

加害者から子供への暴力

■ あり ■ なし ■ 不明

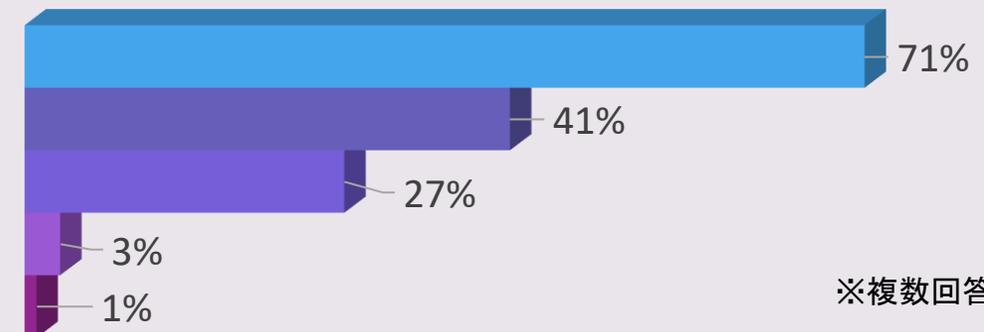
n=596



加害者から子供への暴力の内容

■ 面前DV ■ 精神的暴力(面前DV以外)
■ 身体的暴力 ■ 育児放棄
■ 性的暴力

n=281

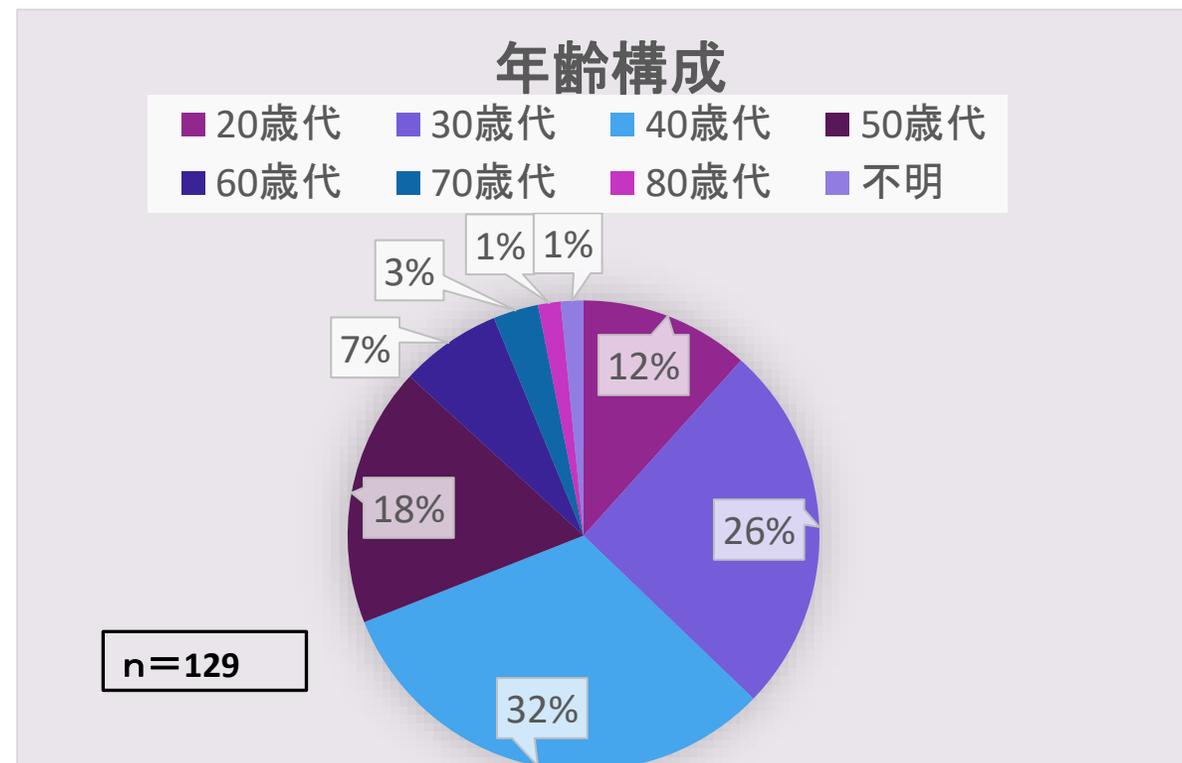
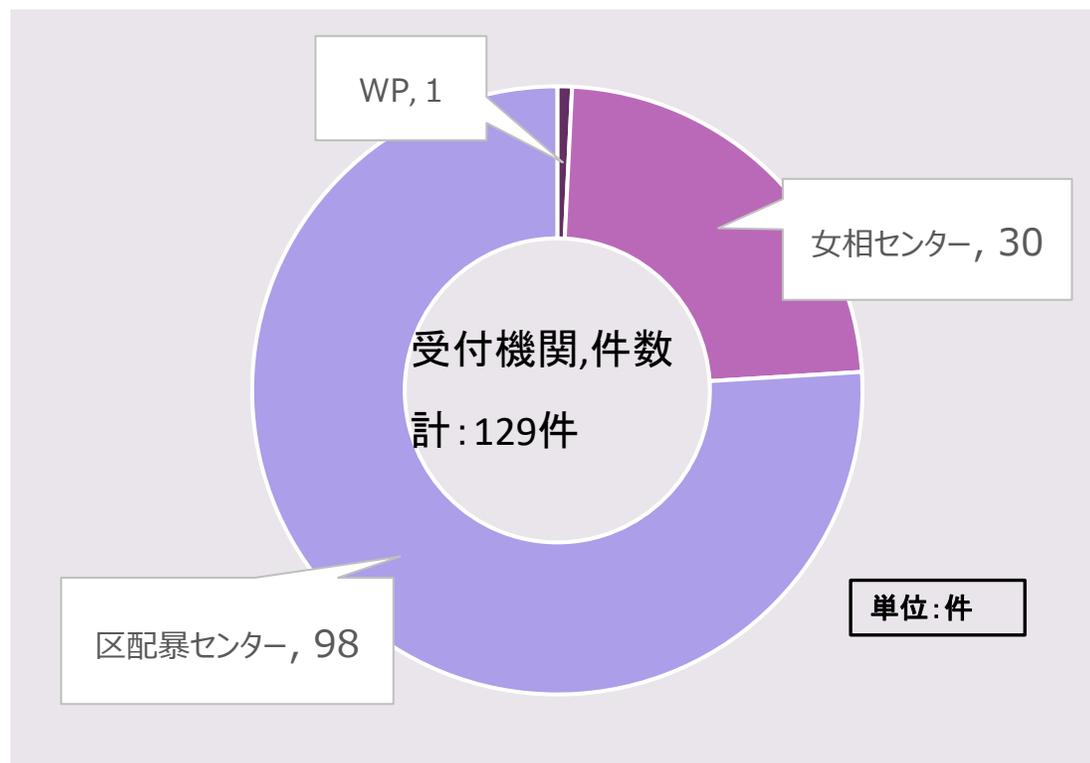


※複数回答有

2. 面接相談

○ 受付機関及び受付件数、相談者の年齢構成

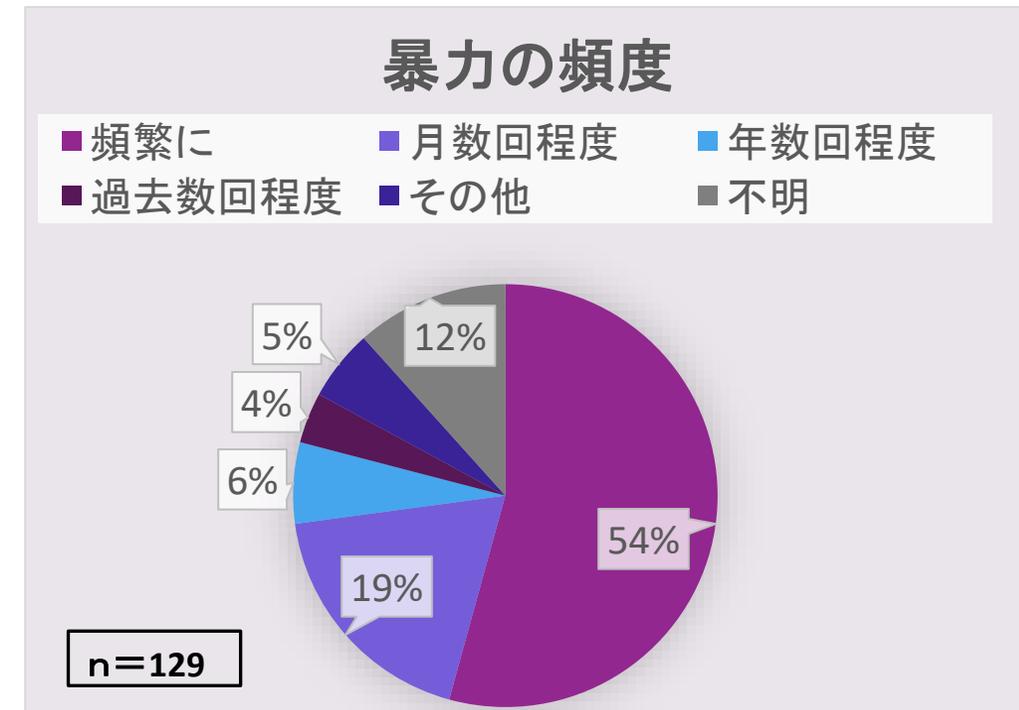
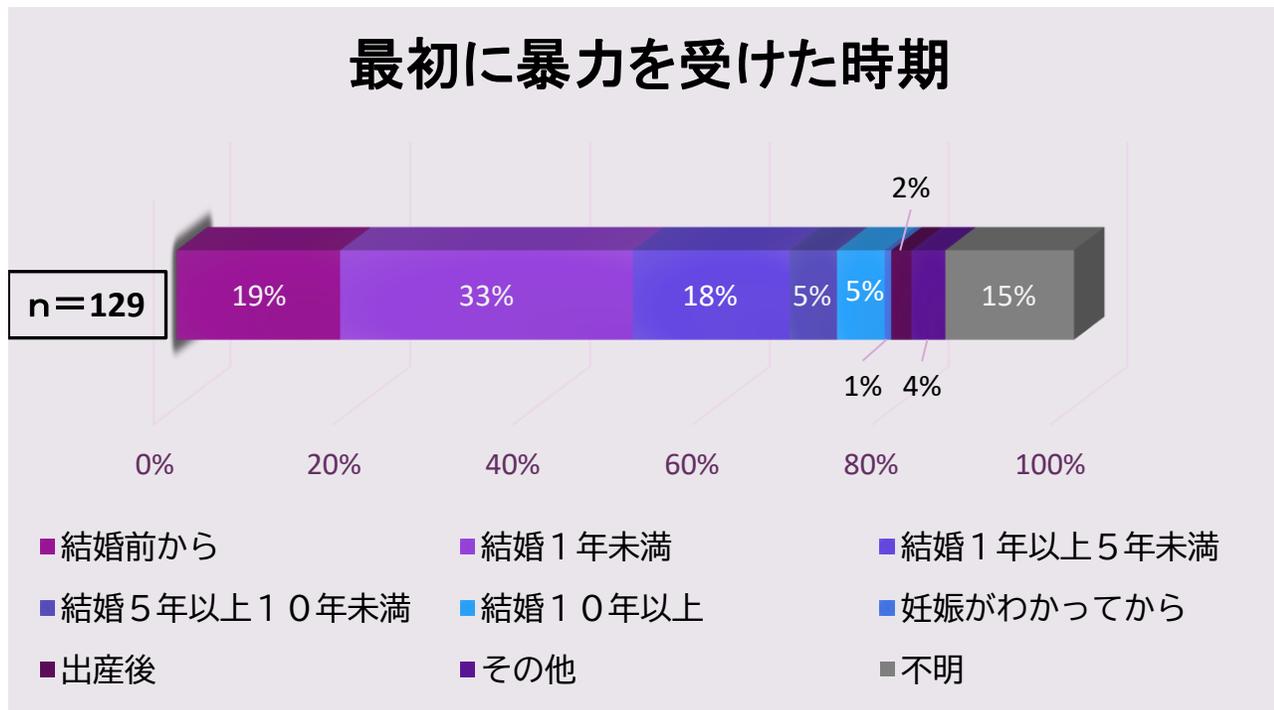
- 面接相談においても、WP、女相センターに加えて、区配暴センターにも調査協力を依頼。今回調査では、約75%が区配暴センターからの調査票となっている。
- 相談者の年齢は、40歳代が32%で最も多く、次いで、30歳代が26%、50歳代が18%となっている。



2. 面接相談

○最初の暴力を受けた時期・頻度

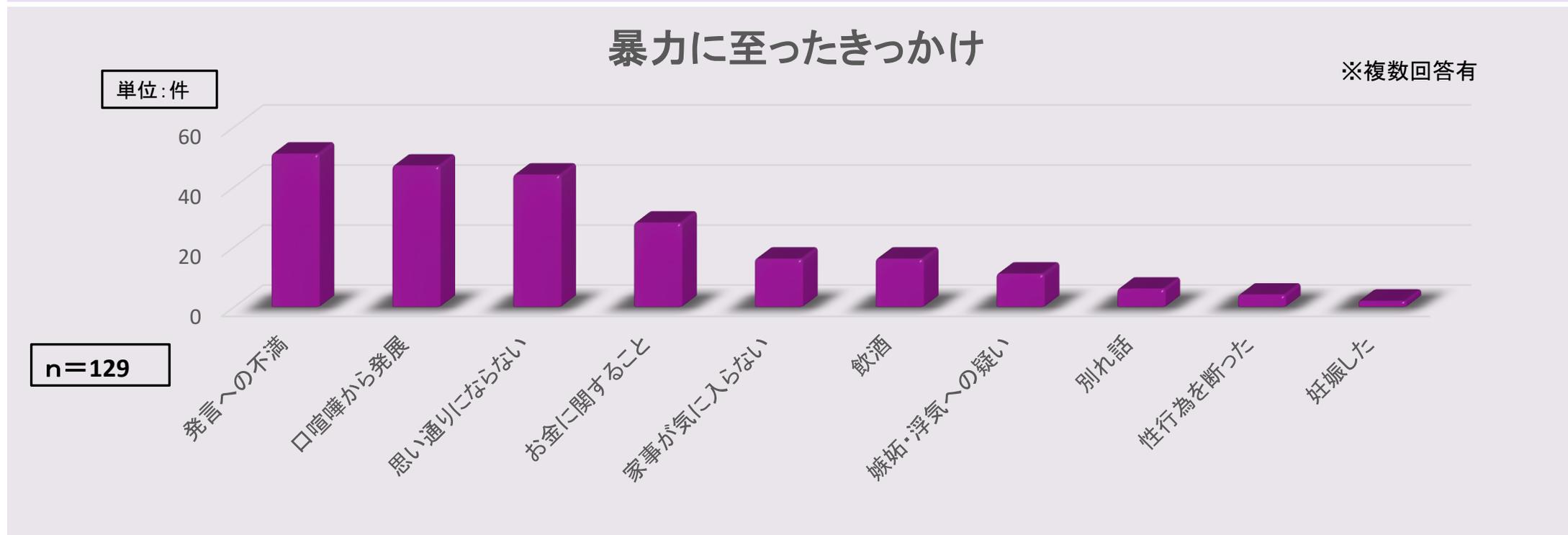
- 最初の暴力を受けた時期は、結婚1年未満が最も多く、3人に1人がこの時期から暴力を受けるようになったことが分かる。また、結婚前から暴力を受けている人も2割程度となっている
- 相談者が相手からの暴力を受ける頻度は、「頻繁に」を受けている人が半数以上となっている。



2. 面接相談

○暴力に至ったきっかけ

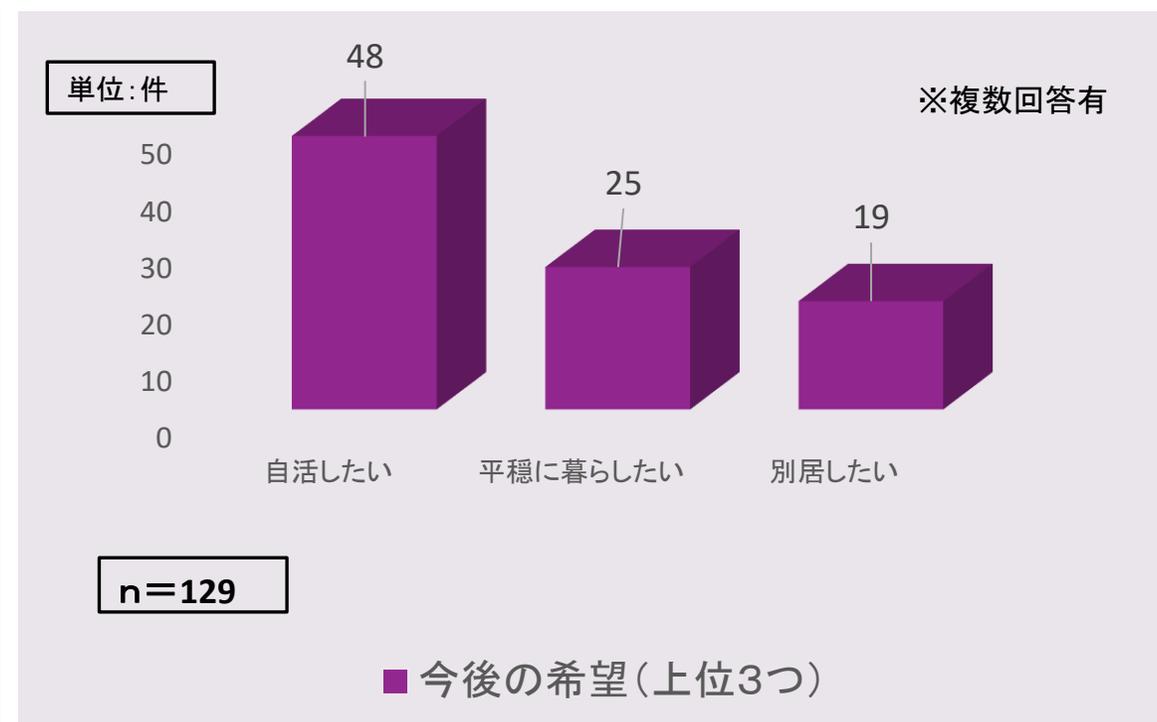
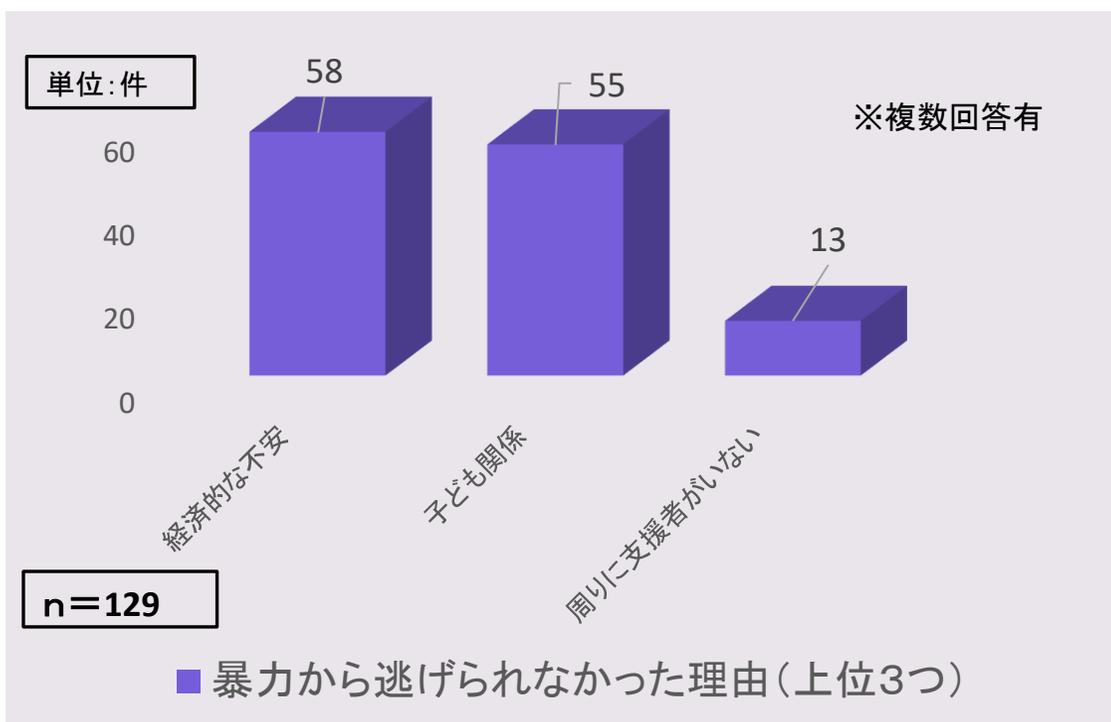
- 暴力に至ったきっかけは、「意に沿わないことを言った」が最も多く、これに「口喧嘩から発展」や、「被害者が思い通りにならない」が続いており、前回調査とも同様の傾向となっている。
- また、妊娠をきっかけに暴力が始まるケースもあった。



2. 面接相談

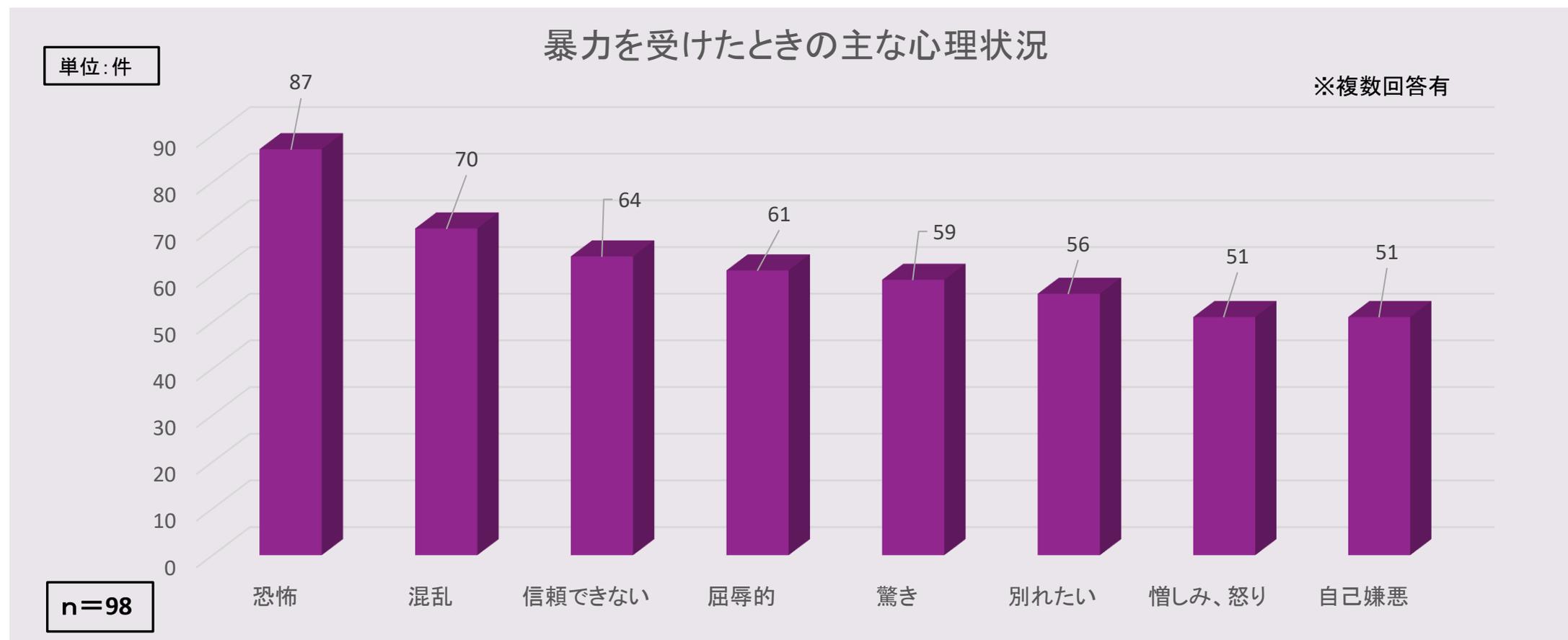
○暴力から逃げられなかった理由・今後の希望

- 暴力から逃げられなかった理由としては、「経済的な不安」を挙げる人が最も多くなっており、「子どものためひとり親は避けたい」や「子どもを転校等させたくない」と子ども関係の理由が続く。
- 被害者の今後の希望としては、「相手に見切りをつけ、離れて自活したい」が最も多く、「すでに別居・離婚したので平穩に暮らしたい」、「別居したい」が続く。



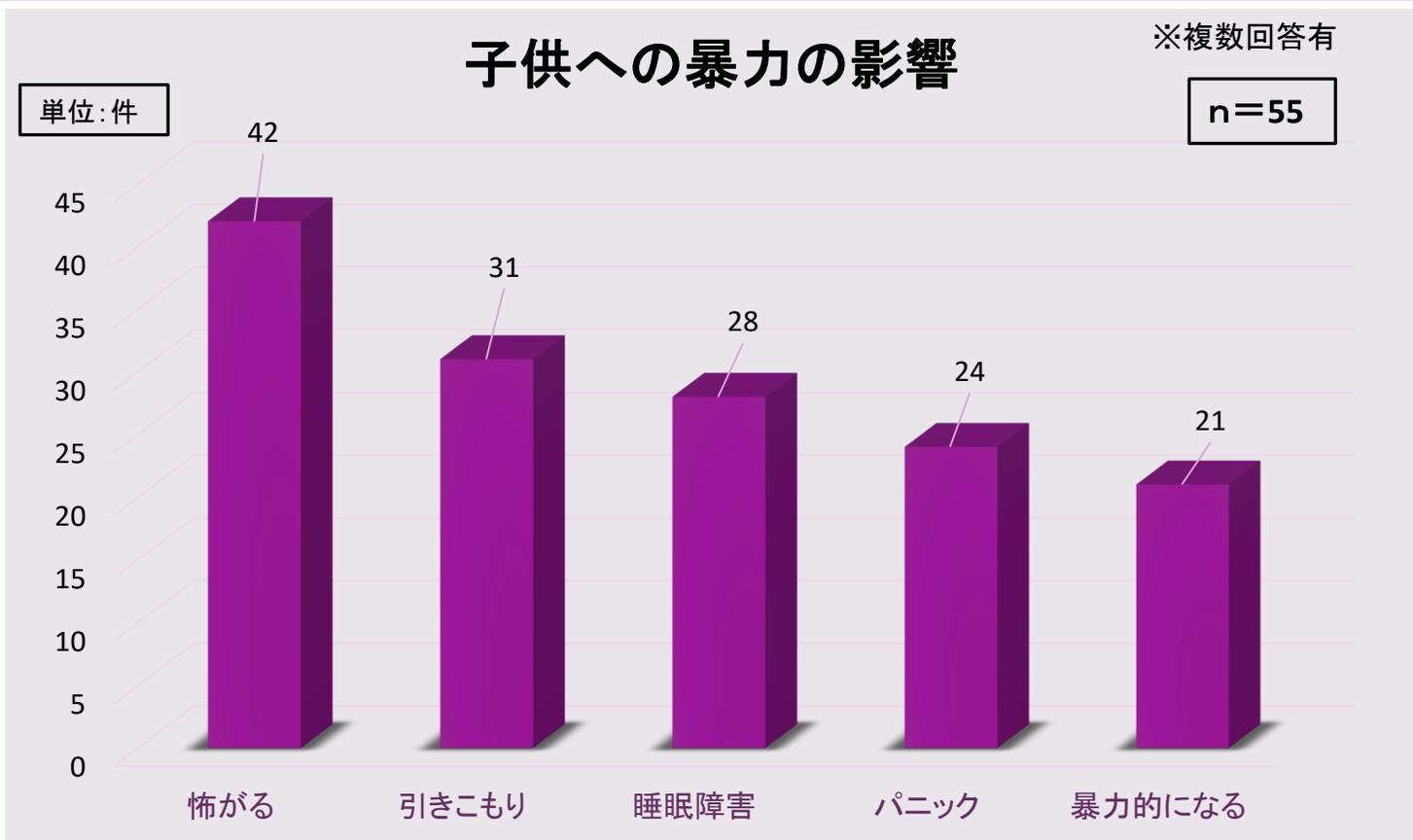
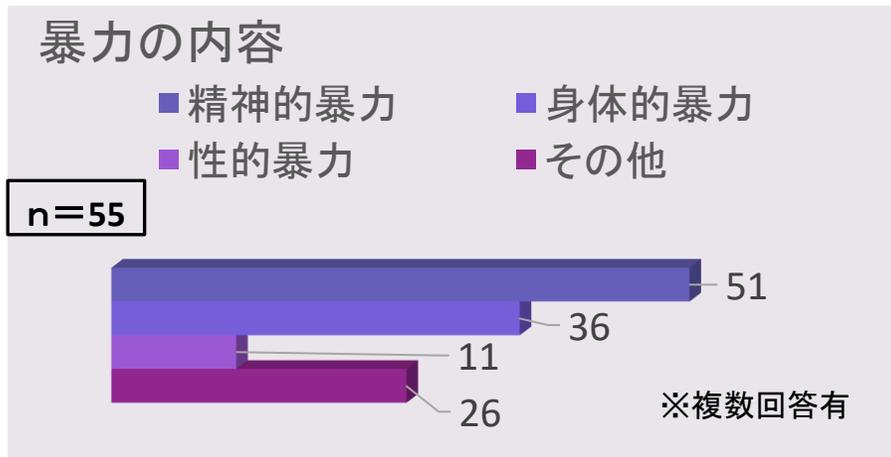
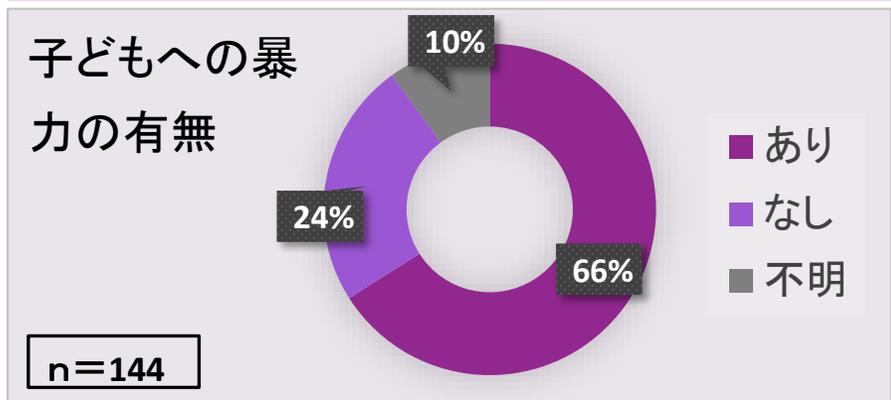
1. 暴力を受けたときの心理状況

- 暴力を受けたときの心理状態は、「怖い、恐怖、怯え」が最も多く、「混乱(頭が真っ白になった、何も考えられなくなった)」、「相手のことが嫌になる、話すのも嫌、相手を信頼できなくなる」が続く。
- 「自分が悪いのではないか」と自己嫌悪になる



2. 加害者から子供への暴力の有無と暴力の内容・影響

- 暴力を受けている時に子供がいた人のうち、加害者から子供への暴力があったのは66%となっており、子供への暴力の内容として、精神的暴力が一番多く、次いで身体的暴力が多い。また、その他として、教育的DVやネグレクト等があった。
- 子供への暴力で、子供に現れた問題・症状や態度の変化としては、「怖がる」が最も多く、「引きこもり・不登校」や「睡眠障害」等、複数の様々な症状が現れている。



3. 東京都発行のパンフレット・カードについて

○手に入れやすいと感じる入手場所・必要と感じた情報

【手に入れやすいと感じる入手場所】

- 駅、コンビニ、飲食店やデパート、スーパーのトイレ
- 子供を遊ばせる場所(ショッピングモール、映画館、水族館、旅館)のトイレ
- 商業施設のパンフレット置き場
- 公共施設の入り口
- X(旧:ツイッター)やインスタグラム等のSNS

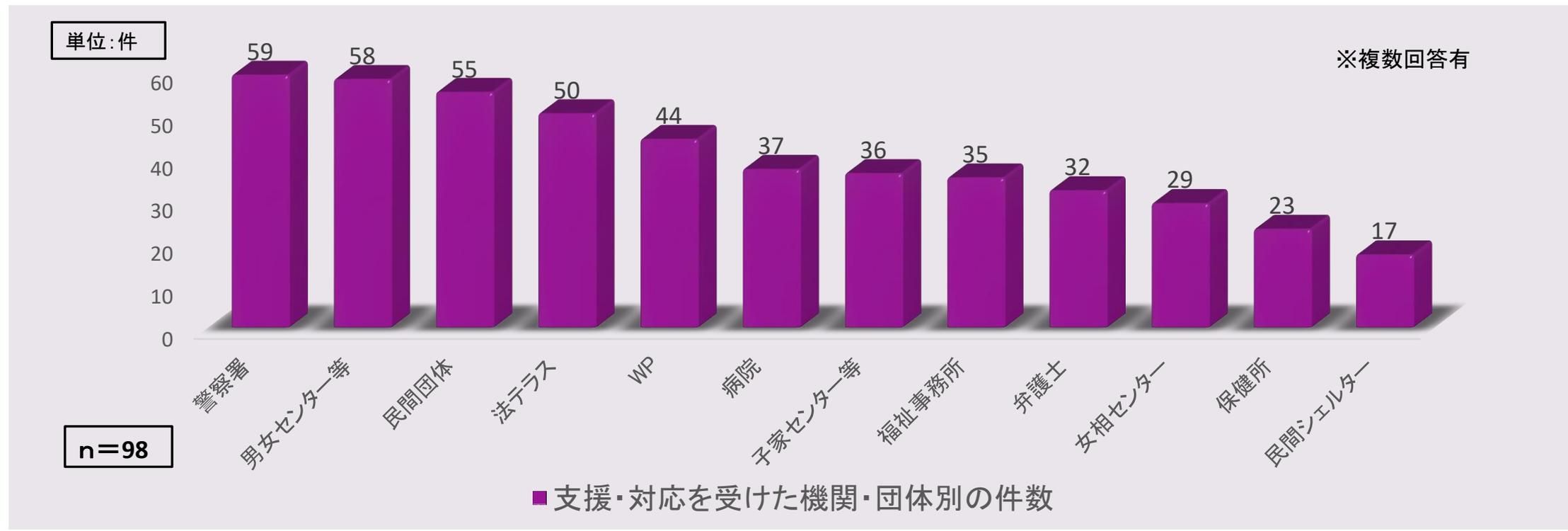
【必要と感じた情報】

- 相談できるところの名前、場所、支援の内容、逃げられる場所
- 叱る、ける、アザができることがDVだと思っていたので、それ以外のことも、DVと知る情報機会が欲しかった
- 日常的にもっと目に入る所で発信してほしい
- 義務教育や大学キャンパス等で「DV」について知る機会が欲しかった

4. 公的機関等における自立に向けた支援・対応の現状

○ 支援・対応を受けた機関・団体等

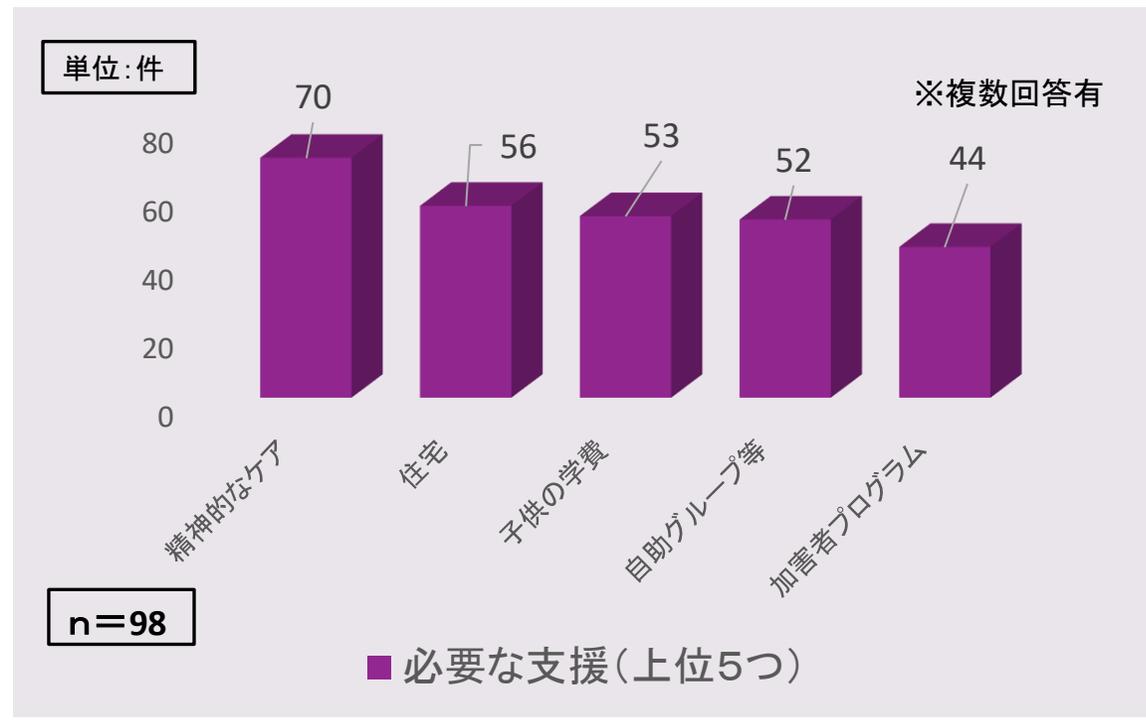
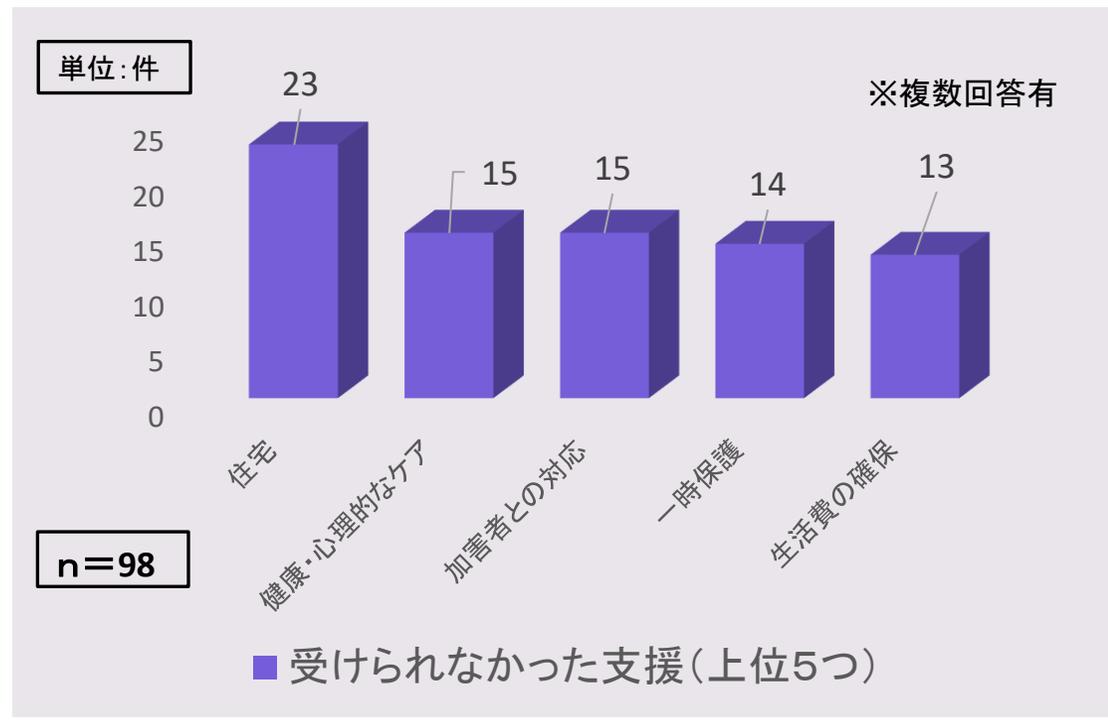
- 支援や対応を受けた機関・団体等は、「警察署」が最も多い。以下、「区市町村の女性センター・男女センター」、「民間団体」、「法テラス」からは半数以上の人支援や対応を受け、「東京ウィメンズプラザ」、「病院」、「児童相談所・子供家庭支援センター」、「福祉事務所」、「弁護士」からは3割以上の人支援・対応を受けている。



4. 公的機関等における自立に向けた支援・対応の現状

○ 必要な支援・受けられなかった支援

- 支援を受けることを望んだが受けられなかった支援としては、「住宅(公営住宅への入居など)」が一番多く、「病気などの健康状況についての診断、治療、心理的なケア」、「加害者との対応」等が続く。
- 今後、安定した生活を送るために必要な支援として、「カウンセリング等精神的ケア」が一番多く、「住宅の斡旋」、「子供の学費の支援」、「自助グループ等同じ体験をした人との交流の機会」等が続く。

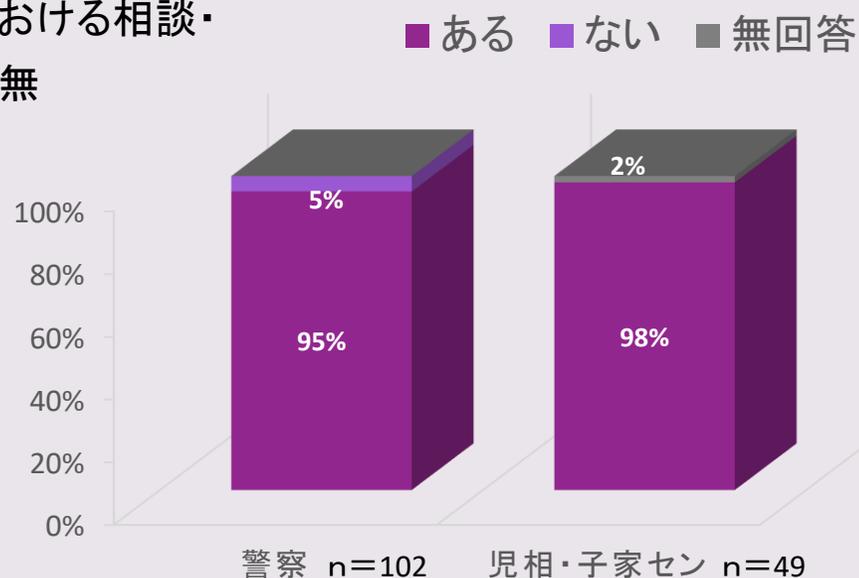


1.配偶者からの暴力に係る相談等について

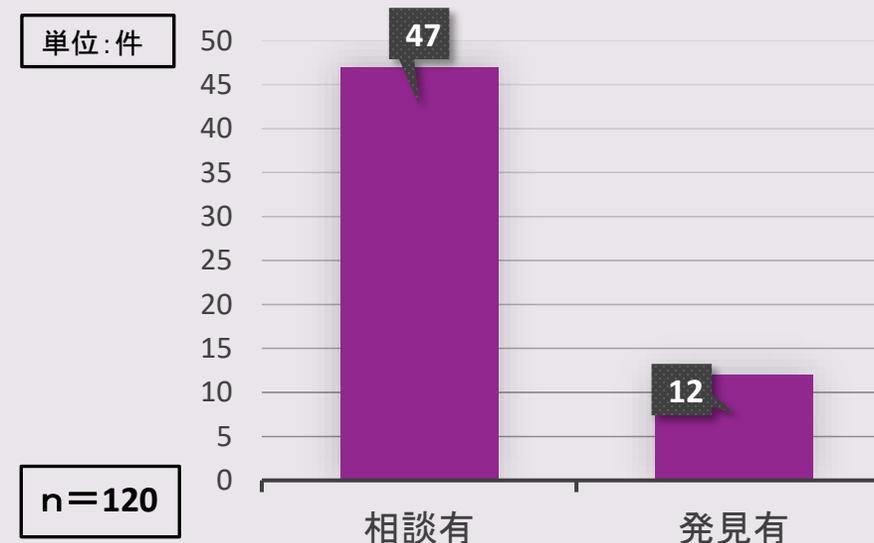
○各機関における配偶者暴力に係る相談・発見の有無

- 調査した機関のうち「警察」および「児童相談所・子ども家庭支援センター」において、配偶者からの暴力に係る相談を受け、又は、各機関等が受けた相談等の中で配偶者からの暴力の被害者を発見したところは、いずれの機関においても9割超であった。
- 調査した幼稚園・保育所・こども園での配偶者暴力に係る相談又は発見について、保護者から配偶者暴力に係る相談を受けたことのある施設は約4割、保護者又は子供の様子から被害者を発見した(疑わしい場合を含む)ことがある施設は1割であった。

各機関における相談・
発見の有無



幼稚園・保育所・こども園での相談・発見の有無



1. 配偶者からの暴力に係る相談等について

○各機関における過去5年間の相談等の件数が増えた主な要因

【警察】

- 関係機関との協力体制が強まったことで、これまで把握されなかった家族(事案)を保護等することができたため。
- 「配偶者からの暴力」は、行政のサポートが受けられる事案であるという認識が世間一般に浸透してきたため。
- 身体的暴力以外もDVとして捉えられ始めているため。
- 在宅勤務やリモートワーク等職場環境の変化に伴い、職場のストレス等を家庭内に持ち込まれるため。
- ジェンダーに対する社会構造の変化や、DV支援、対応制度の拡充等があったため。

【児童相談所・子供家庭支援センター】

- DV相談、面前虐待について一般的に広まってきているため。
- 警察から虐待通告が増加しており、その内容の多くが「面前DV」であるため。

【民間団体】

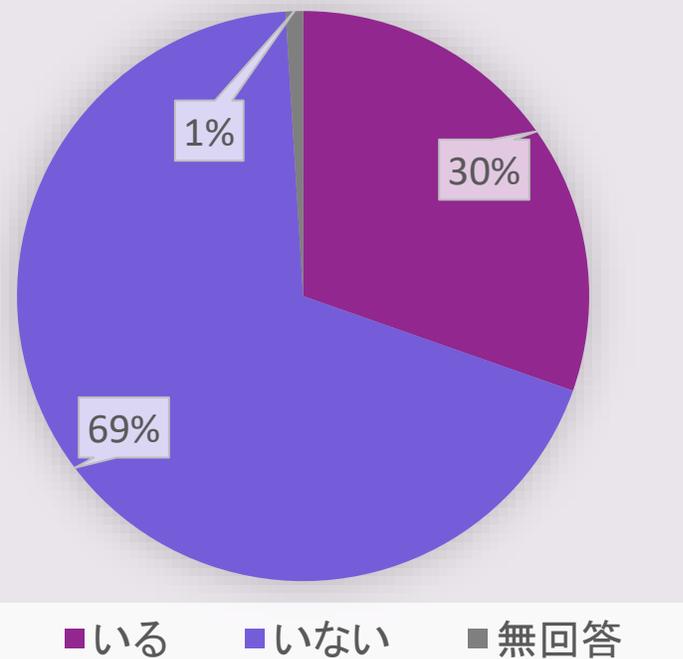
- DVについて知識を得る機会が増え相談してもよいと被害者が思えるようになったこと。
- コロナ期にLINE相談が増えたため。
- 加害者プログラムの認知が上がったことにより、問い合わせが増えたため。

2.配偶者暴力被害者の支援について

○各警察署管内における保護命令の発令された被害者の有無

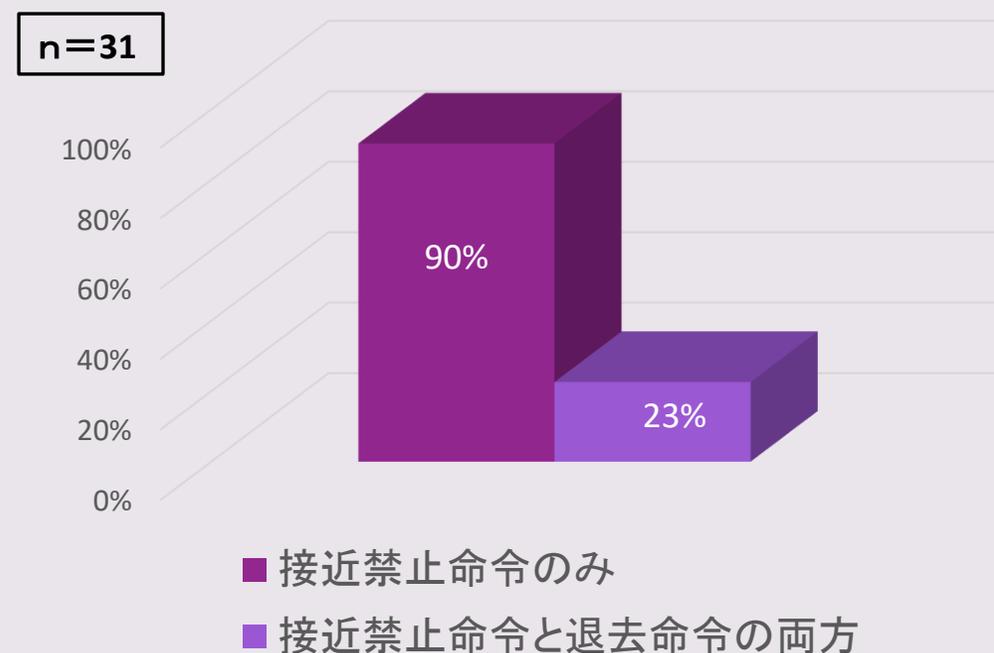
- 保護命令の発令された被害者が管内にいる警察署は30%であり、前回調査とほぼ同じ割合となっている。
- 内容別では、「接近禁止命令のみ」発令された被害者が管内にいる警察署が9割であり、「接近禁止命令及び退去命令」の両方を発令された被害者がいる警察署が 約2割となっている。

保護命令の発令された被害者の有無



発令内容

※複数回答有



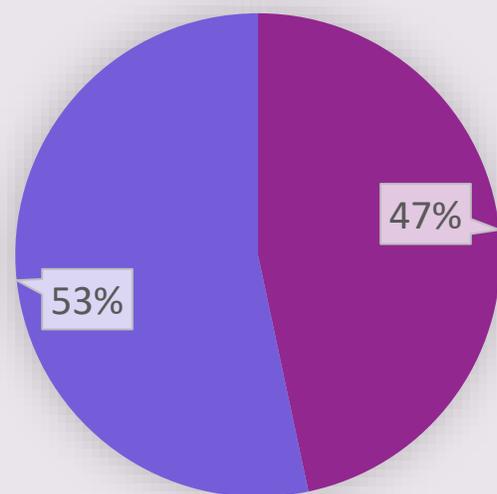
2.配偶者暴力被害者の支援について

○同行支援の実施の有無、依頼相談件数、依頼元及び同行件数

- 回答のあった「民間支援団体」のうち同行支援を実施したのは 15団体中7団体であった。
- 同行件数は7団体合計で 延べ87人であり、同一人物への同行回数別に見ると5回以上が最も多く、次点で1回のみとなっており、被害者の同行支援利用回数が両極化している。

同行支援の有無

n=15



■あり ■なし

同一人物への同行件数

n=87

単位:件

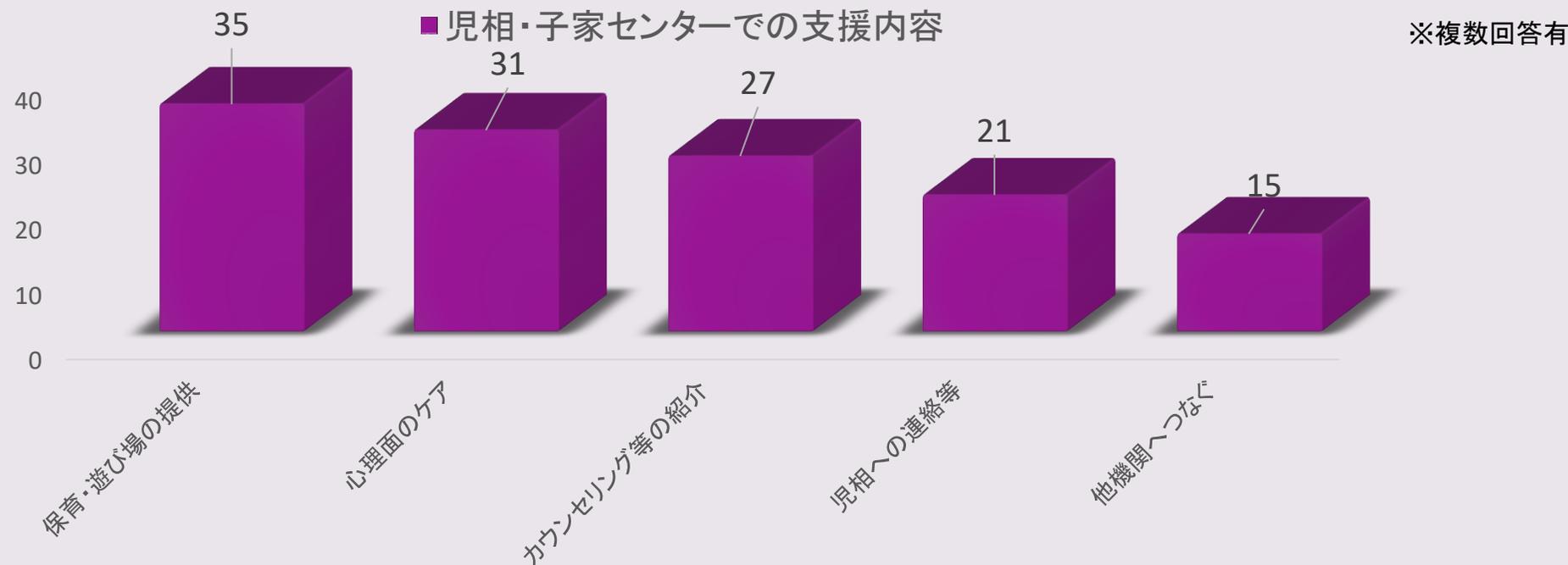


3. 配偶者暴力被害者の子供への支援について

○ 児童相談所・子供家庭支援センターでの被害者の子供への支援内容

- 「児童相談所・子供家庭支援センター」での被害者の子供への支援内容として、「親の面接・相談中の保育や遊びの提供」を行っている機関が一番多かった。次いで、「子供の心理面でのケア」、「心理的治療へつなげるための病院・カウンセリング機関等の紹介」、「児童相談所への連絡・紹介(子供家庭支援センターの場合)」、「他機関につなぐ」と続く。

単位: 件

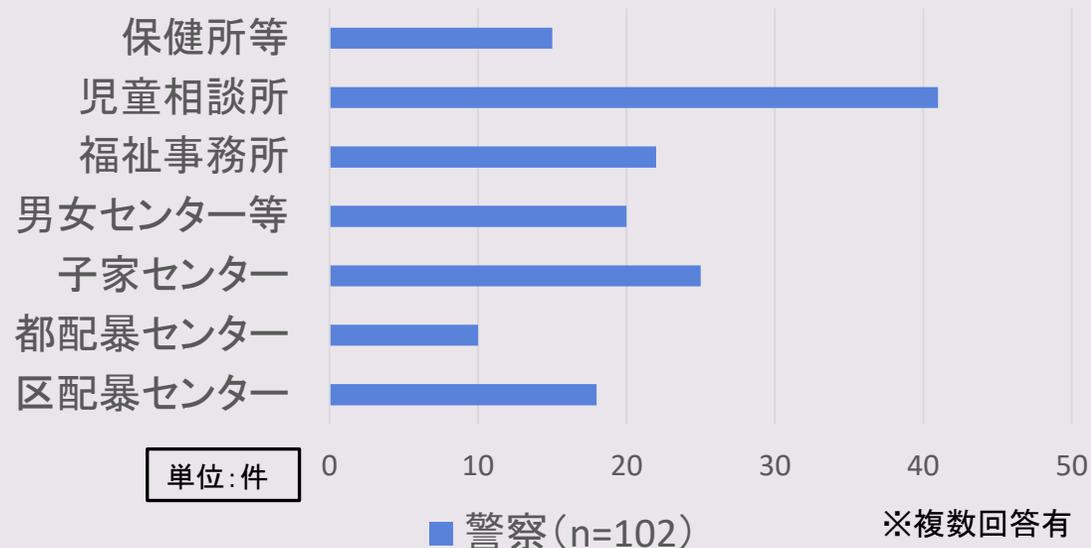


4. 関係機関等との連携について

○ 日頃連絡を取っている主な機関（警察・病院）

- 「警察」では、「児童相談所」との連絡が多くなっており、次点で「子供家庭支援センター」が多くなっている。一方で配暴センター、特に都配暴センターと連絡を取っていると回答があったのは、10署にとどまっている。
- 「病院」では、「保健所・保健センター」、「子供家庭支援センター」、「福祉事務所」、「児童相談所」の回答が3割を超えており、福祉関係の機関と中心に連絡を取っていることがわかる。

警察が日頃連絡を取っている主な機関



病院が日頃連絡を取っている主な機関

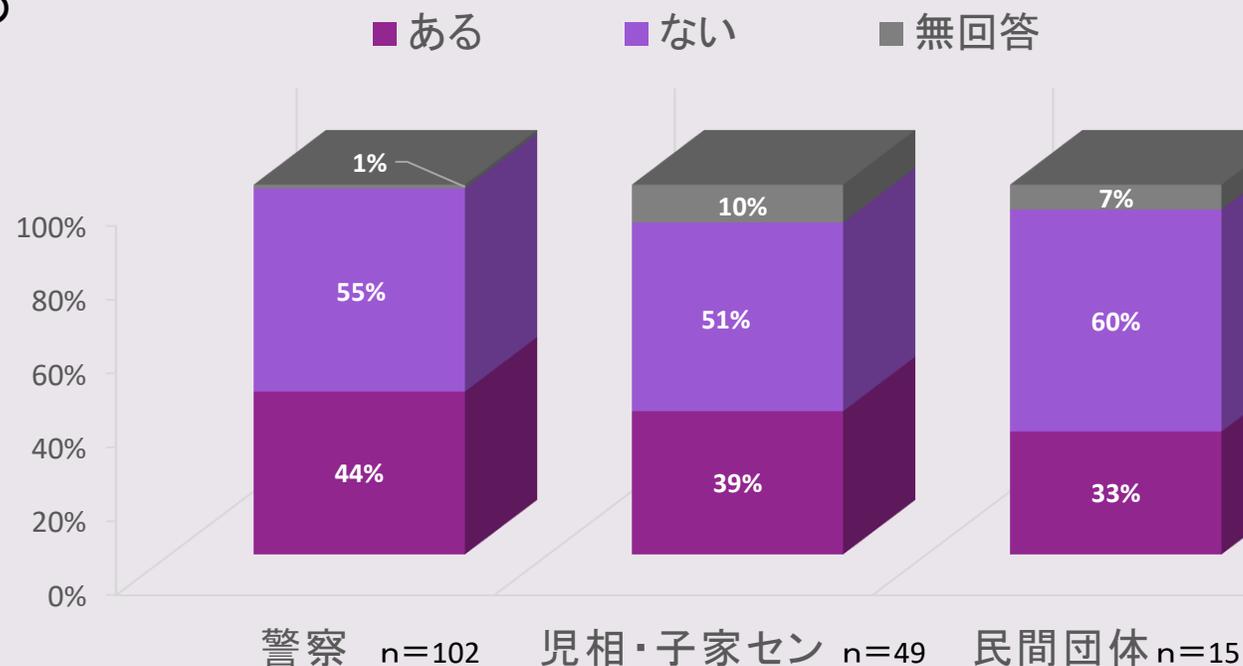


5. 加害者への対応について

○加害者からの問い合わせの有無

- 配偶者暴力の加害者(そうと思われる者を含む)から問い合わせ(威圧的行為を含む)のあった機関等は、「警察」では44%及び『児童相談所・子供家庭支援センター』では39%、「民間支援団体」では、33%となっており、各機関において、一定数加害者への対応を行っていることがわかる。

各機関における加害者等からの
問い合わせの有無

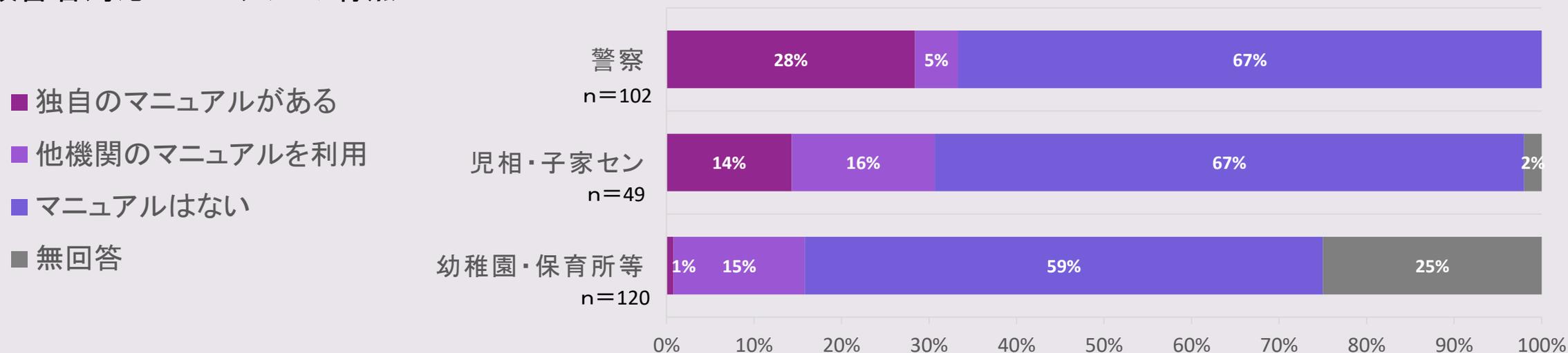


6.配偶者暴力被害者に支援に係る課題等について

○被害者対応マニュアル等

- 被害者への対応マニュアルについては、「独自のマニュアルを作成している」または「他機関作成のマニュアルを利用している」と回答したのが、「警察」・「児童相談所・子供家庭支援センター」・「幼稚園・保育所・こども園」で、それぞれ33%・30%・16%に留まっている。なお、他機関作成のマニュアルとしては、「所在する区市の配偶者暴力相談支援センター等が作成した相談対応マニュアル」や「子ども家庭支援センターが作成した対応マニュアル」などがある。
- 一方で、**前回調査**では、「警察」において、**100%**が「独自のマニュアルを作成している」と回答があり、「幼稚園・保育所・こども園」においても**50%以上**が、「独自のマニュアルを作成している」または「他機関作成のマニュアルを利用している」と回答があった。

被害者対応マニュアルの有無

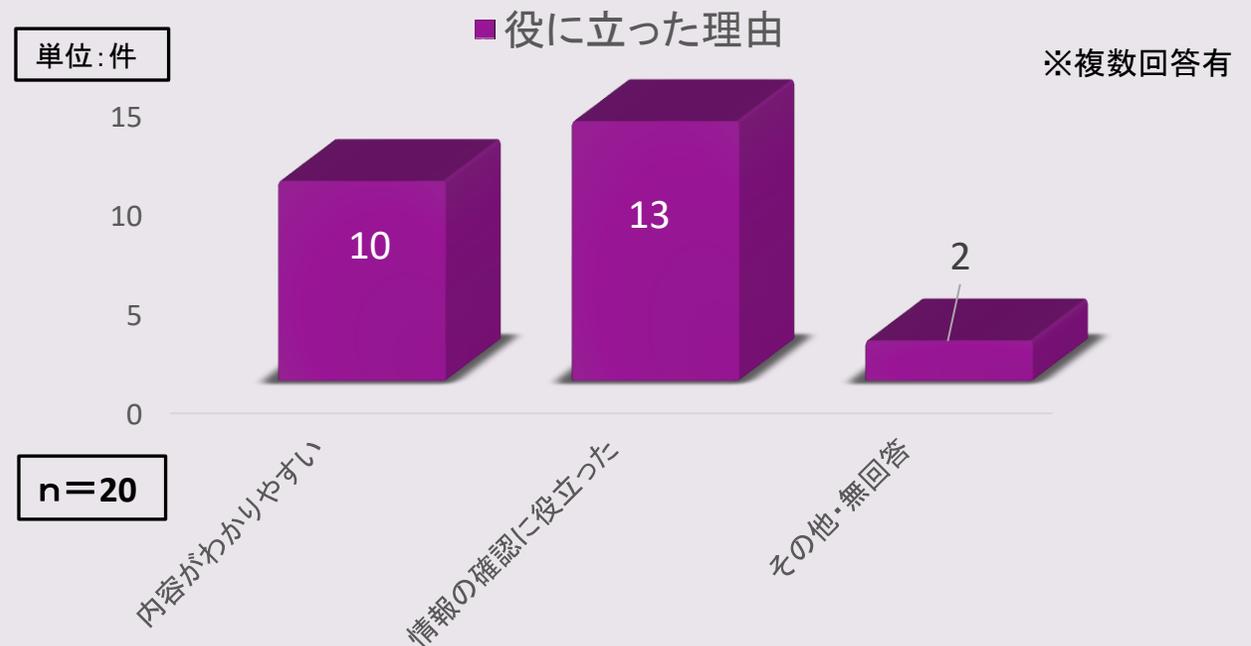
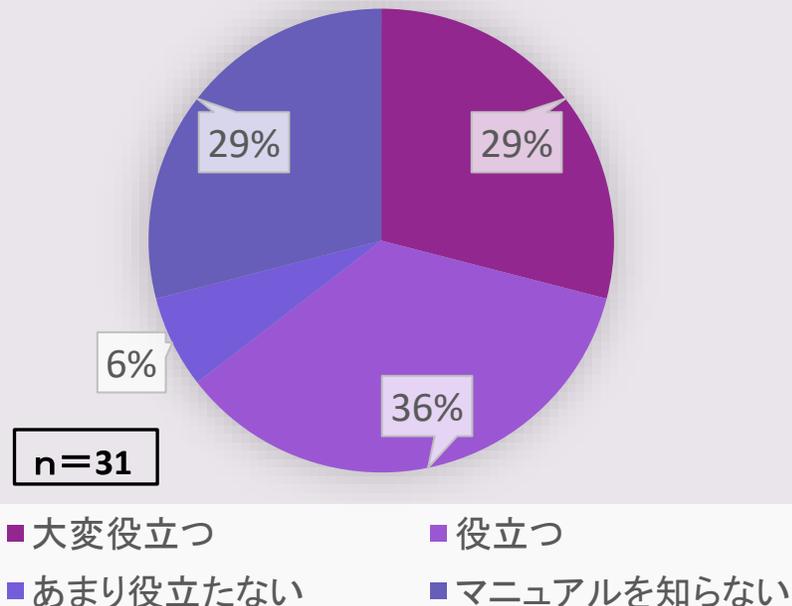


6.配偶者暴力被害者に支援に係る課題等について

○「医療関係者のための配偶者暴力被害者対応マニュアル」について

- 「病院」における東京都作成「医療関係者のための配偶者暴力被害者対応マニュアル」については、病院では、「大変役立つ」又は「役立つ」と回答した病院が64.5%を占めている。一方で、31病院中9病院が「マニュアルの存在を知らない」と回答している。
- 「大変役立つ」又は「役立つ」と回答した理由として、「情報の確認に役立った」や「内容がわかりやすい」との回答が多く、配偶者暴力に係る情報の確認のために活用している病院が多いことが分かる。

医療関係者向けのマニュアル



6. 配偶者暴力被害者に支援に係る課題等について

○ 必要な情報

- 配偶者暴力に関する必要な情報として、「病院」では、「被害者に配布するパンフレット等が必要」を挙げたところが最も多くなっており、次いで「研修・講座や講演会等の情報が必要」となっている。
- 「児童相談所・子供家庭支援センター」では、「加害者プログラムに関する情報が必要」を挙げたところが最も多く、次いで「各機関の役割や連携方法の情報」となっている。
- 「警察」、「幼稚園・保育所・こども園」では、「各機関の役割や連携方法の情報」を挙げた機関等が最も多く、それぞれ、次いで、「被害者に配布するパンフレット等が必要」が多い結果となっている。

